

「FWを強くして、全国ベスト4目指す」(中谷新監督)

# 坂田「魂」継承

4月から新監督に就任する中谷誠コーチ(右)  
と握手を交わす坂田好弘監督



## 中谷誠(52)

○1960年12月1日生まれ、大阪市出身  
○大阪府立茨田高(76年～)⇒大体大(79年～)⇒近鉄(83年～)⇒近鉄FW  
コーチ(93年)⇒近鉄監督(94年～98年、  
05年～07年)⇒近鉄チームディレクター  
(08年)⇒大体大コーチ(12年)⇒大体  
大監督(13年～)  
○現役時代のポジションはフランカー(F  
L)で、日本選抜チームにも選出された。



坂田監督

〈坂田監督あいさつ〉

本日はたくさんお集まり頂きありが  
とうございます。36年間を無事に終え  
たというのが今の気持ちです。

長い年月が経って思い出というのはた  
くさんありますけども、(大体大が昔  
あった)茨木でラグビーを指導し始め  
た頃のこと、(現在、大体大がある)熊取  
に移ってきた時のこと、そして大学選手  
権最終戦となった早大戦の時のことなど、

坂田の「魂」継承！大体大ラグビー部の新体制発  
表記者会見が17日、大体大で開かれ、大体大を3  
6年間率いた坂田好弘監督の後任に、中谷誠コ  
ーチが昇格し、新監督に就任することが発表された。  
同部長には、コーチの中井俊行准教授。中谷新監督  
は、大体大OBで、近鉄で選手、監督を務めた後、  
12年からは同部コーチを務めていた。坂田監督は  
「中谷新監督には大体大ラグビー部の歴史の重み  
が年々かぶさってくるとは思いますが、頑張ってい  
ただきたい。36年間お世話になりました」とあいさつ。  
中谷新監督は「大体大ラグビー部の『魂』を継承し、  
大学選手権ベスト4を目指したい」と意気込みを語  
った。【構成・永富慎也、写真も】

〈中谷新監督あいさつ〉

本日は、多くの方々にお集まり頂きあ  
りがとうございます。今回、坂田先生の  
後に新監督として大体大ラグビー部で  
やらせていただきます。

坂田先生は36年に渡って多くの功績  
を残されてきて、その後を受けるとい  
うことをとても重く受け止め、そして大  
きな責任を感じています。私も坂田先  
生から一人の選手としてラグビーを教  
わってきました。これまでのいろんな経  
験、大体大ラグビー部の「魂」を継承し  
ていきたいと思っています。

坂田先生がいつもおっしゃる「矢尽き  
て刀が折れても、骨が砕けても血が枯  
れるまで我々は戦い抜くんだ」という精  
神でこれから学生たちを指導してい  
きたいなと思っています。これから全  
身全霊で取り組んでいきたいと思いま  
すので、皆様のご支援、ご協力のほどを  
宜しくお願いいたします。

監督36年間での一番の思い出  
――坂田監督――  
監督就任9年目に同大に勝った時の  
試合はすばらしい思い出に残っています。当  
時、同大は関西大学リーグで10連覇  
していて、11連覇を阻止できた。大学選  
手権を3連覇していたチームに勝ったこ  
とが一番の思い出です。

いろいろな思い出がありますけど、今は  
ホッとしています。

後任の監督として中谷氏が引き受け  
て下さいます。ラグビー部が40数年の  
歴史を持っていますけど、その重みとい  
うものが中谷新監督には年々かぶさ  
っていくとは思いますが、頑張ってい  
たいと思います。

36年間監督を務めてきましたが、ここ  
にいらつしやる新聞社の方々の何代かに  
渡って大体大を支えて下さったと  
思いますし、大変お世話になってきま  
した。これからも大体大ラグビー部のこ  
支援、指導のほど宜しくお願いいた  
します。

ラグビー部はずっと続きますので、引  
き続き宜しくお願いいたします。長い間  
ありがとうございました。



中谷新監督



それと(12年の)大学選手権最終戦の早大戦ですね。試合が終わったあと、両チームの選手たちが花束をくれことや、最後に花道を作って見送ってくれたことが一番の思い出です。

—長いラグビー人生の中での思い出

〈坂田監督〉

今となって思うのが、ラグビーに出会えたことが一番大きいですね。洛北高でラグビーを始めたんですが、その高校の合格発表の日に、グラウンドを見るとラグビーをやっていた。それがラグビーでなかったら、ラグビーに出会えてなかったでしょうね。それがスタートでずっとラグビーをやってきました。

今思えば、いろんな指導者に出会えたことが大きいですね。それぞれから得たことは非常に大きいんです。いろんな指導者から得た知識は財産になっている気がします。ラグビー自体に感謝しています。

—ニュージランド(NZ)に渡った〈坂田監督〉

(カンタベリー大に留学した)69年当時、どのスポーツ界でも外国

に行くという選択肢がなかった時代でした。だから、決心して世界一強いラグビーの国で自分の力を試そうと思いました。これは覚悟を決めました。1シーズンで27試合あったんですが、毎週毎週大きな体の選手と試合をやるんで、多分無事には帰って来れないだろうなと思っていました。

そのNZで何を学んだかというところ、NZは非常に人を試します。この選手が本物かどうか。ある時、私もテストされました。試合で全然ボールが自分に回ってこなくて、試合させてくれない状態でした。普通の選手だったらそれがイヤになるか、諦めるかになるんですけど、私はタックルを血を流しながら毎試合やって、2、3試合を経験すると、またボールが自分に回ってくるようになりました。

この話をNZの当時のチームメイトに話すと、こいつを仲間に入れていいかどうかテストしたんやと聞いていました。そのテストを経て本場の仲間になった。そういう話を聞くと、どういう世界でもある時期テストをされて、その時にどう対応するか、一生懸命できるかが非常に大事なことだということを学びましたね。

中井部長



あと留学先には自分一人しかいないで、日本人は女性の方一人がいるだけでした。その中で何ヶ月か生活しますと、日本人ということをするごく意識しましたね。これまでは海外遠征で日本人同士でいくことはありましたが、日本人ということを意識することはありませんでした。一人で行ってみて初めて日本人だと感じましたね。

—ラグビー殿堂入りを果たした〈坂田監督〉

12年の6月に殿堂入りをしました。たが、全く想像もしていなくて最初はビックリしました。世界の人がたが日本人ラグビー選手の背中を見ていたのかという思いがありましたので、そういう対象にはならないだろうと思っていました。RJBの殿堂入りのことをインターネットなどで調べて、そのことがわかって、その対象になったことは、長くラグビーをやってきたよかったなと思いました。

殿堂入りをした重みを背負って日本のラグビー界のために、何か役に立ちたいなと思っています。

19年にW杯が日本で開催されますけど、招致は決まっていますが、成功するかどうかはこれからが非常に大事になってきます。日本協会をはじめ莫大なお金を使うので、いろんな面で相当の努力が必要になってくると思います。これから(私が)力を発揮できるように手助けしたいとは思っています。

—日本のラグビーが世界と戦っていくために必要なこと

〈坂田監督〉

指導者になって、日本のラグビーをやるうと言いますけど、じゃあ日本のラグビーって何なんだろうとあまりにもあいていまいすぎではっきりしていません。日本の選手をサッカーのように、NZやイングランドなどラグビー強豪国に送って、1シーズン20から30試合

やって、そのポジションで日本人が戦えるならば世界で通用するということになると思っています。そういう選手たちを各ポジションで集めていて、日本人のラグビー、俊敏性とかスタミナがあるとか、ハンドリングの技術が高いとか、そういうのを日本の戦術を使いながら育てていくというのが、意外と早道なんじゃないかなと思っています。

サッカーのようにどんな武者修行に行かせて、世界に通用するかどうかを試して、戻ってきて日本のチームを作る。そういう風にラグビーもやればいけないと思っています。チームでいくのではなく、個人で一心にやるってことが大事だと思っています。日本協会なんか若いう望ましい選手たちを支援してあげて、半年くらいずつ強い外国のチームでやらせてあげると、非常に有望な選手の発掘、日本のラグビーの発展につながると思います。

—関西のラグビー界に望むこと

〈坂田監督〉

昨シーズンは天理大が全国で決勝まで行きました。関西のチームでも、うまくいけば決勝まで行ける、日本一を目指すチーム作りが出来るということです。天理大が決勝まで行けた背景には、それぞれ世代のいい選手を各ポジションに集めてラグビーをしました。関西もある意味で一番大事なものはポイントポイントでうまく選手を集めてラグビーをすれば、可能性はあると思います。

でもそれは非常に難しいと思います。いい選手を集める背景として、ラグビー部だけでなく大学の総力を挙げてサポートし、指導していかないといけないと思います。関東の大学との差はあると思います。

—今後、大体大との関わり方

〈坂田監督〉

何らかの形で残ることになると思います。



〈野田賢治 浪商学園理事長〉  
「エグゼクティブ・アドバイザー」として大体大のラグビー部の発展のために力を貸してもらえようとしています。関西協会の会長でもありますが、W杯開催にも力を注がれるということで、ラグビーに限らず国際的なスポーツという観点からいろんなことをご指導いただけたらと思っています。

—新チームの方向性

〈中谷新監督〉

24年度のチームを振り返って、フィジカル面やスキル、特にスピード面が欠けている部分がありますので、全般的にそういうところを強化して上で、関西制覇、全国ベスト4を目指してこれから一歩ずつ進んで行きたいと思っています。

—ラグビーのスタイルはFW戦

〈中谷新監督〉

やはり、FWが強いチームが評価されるとしています。でもバランスが大事だと思っています。バックスも大事です。それにFWがいいボールを回すようなスタイルを作って、最終的にはバックスがトライをするというケースを作りたいと思っています。(終)